



音声およびビデオ

- [CMS ミーティング用ミーティングコントロール \(2 ページ\)](#)
- [Webex Meetings のミーティング制御 \(3 ページ\)](#)
- [CMR ミーティング用ミーティングコントロール \(4 ページ\)](#)
- [ブリッジのエスカレーション \(7 ページ\)](#)
- [コールパーク \(8 ページ\)](#)
- [コールピックアップ \(8 ページ\)](#)
- [Dial via Office \(15 ページ\)](#)
- [遠端カメラ制御 \(FECC\) \(23 ページ\)](#)
- [フレキシブル DSCP 値 \(24 ページ\)](#)
- [ハントグループ \(25 ページ\)](#)
- [Jabber 間コール \(29 ページ\)](#)
- [ボイスメールを使用しないユーザが通話無視できるようにする \(33 ページ\)](#)
- [携帯電話に移動 \(34 ページ\)](#)
- [マルチライン \(39 ページ\)](#)
- [パーソナルルーム \(41 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber ビデオおよび音声通話のプッシュ通知サービス \(42 ページ\)](#)
- [単一番号リーチ \(45 ページ\)](#)
- [URI ダイヤル \(47 ページ\)](#)
- [ボイスメールの無効化 \(50 ページ\)](#)
- [ボイスメッセージ \(54 ページ\)](#)
- [自動応答コール \(56 ページ\)](#)
- [シスコユニファイドコンタクトセンターを備えた Jabber \(56 ページ\)](#)
- [電話番号解決リクエストのサーバ負荷の軽減 \(57 ページ\)](#)

CMS ミーティング用ミーティングコントロール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

Jabber は、Cisco Meeting Server (CMS) アクティブコントロール機能を使用してミーティングコントロール機能を提供します。ミーティングコントロール機能には、参加者リスト、参加者のミュート、参加者のドロップ、ビデオレイアウトの変更などがあります。

ActiveControl を使用するには、展開時に次のものがが必要です:

- エンドポイントと会議サーバー間のコールパスは、iXメディアエンドツーエンドをサポートします。
- ミーティングサーバーで有効にされた適切なアクセス許可。

CMS の使用の詳細については、『[Cisco Meeting Server, Deployments with Expressway Planning and Preparation Guide](#)』を参照してください。

リリース 12.5 の時点で、Jabber は、ActiveControl を介して SIP デバイスとして Cisco Meeting Server 会議にアクセスできます。次のいずれかの方法で ActiveControl 会議に入室できます。

- CMS で設定されているルームへのダイヤル
- CMS 室が会議ブリッジとして設定されている場合の 2 つのコールのマージ

始める前に

アクティブコントロールを設定するには、次の情報が必要です。

- Cisco Meeting Server リリース 2.3 以降
- Cisco Unified Communications Manager



(注) これらは、ActiveControl の完全にサポートされたリリースです。Unified CM および Expressway の以前のリリースでは、Expressway 上のコントロール機能はサポートされていませんでした。

- ステップ 1** SIP シグナルを使用した通信を有効にするために、CMS を使用して Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。
- ステップ 2** 着信および発信 SIP コールをルーティングするように、Cisco Unified Communications Manager のルートパターンを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager の Configure Call Routing](#)』の章を参照してください。
- ステップ 3** CMS 内で、Cisco Unified Communications Manager サーバへの発信 SIP コールルーティング用のルールを設定します。詳細については、『[Cisco Meeting Server with Cisco Unified Communications Manager Deployment Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 4** 会議リソースを管理するには、CMS スペースを設定します。詳細については、『[Cisco Meeting Server Release API Reference Guide](#)』を参照してください。

Webex Meetings のミーティング制御

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

Cisco Jabber を設定すると、ユーザは Webex を起動せずに Jabber から Webex ミーティングに参加できるようになります。

- ステップ 1** 発信ファイアウォールを、次のドメインを許可するように設定します: *.ciscospark.com、*.wbx2.com、*.webex.com、*.clouddrive.com
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクを MRA 用の Expressway で設定し、次に SIP 信号を使用した通信を有効にする Webex を使用します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。
- ステップ 3** 着信および発信 SIP コールをルーティングするように、Cisco Unified Communications Manager のルートパターンを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager の Configure Call Routing](#)』の章を参照してください。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager サーバへの発信 SIP コールのルーティングについて、Webex でのルールを設定します。詳細については、『[For more information, see the Cisco Meeting Server 2.3 with Cisco Unified Communications Manager Deployment Guide](#)』を参照してください。

CMR ミーティング用ミーティングコントロール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
—	はい	はい	はい

Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR) Cloud を使用すると、Cisco Webex ミーティングに参加したり開始したりするのが簡単です。Cisco Jabber でユーザは、Cisco Webex インターフェイスでミーティングにアクセスしたり、ビデオでミーティングに参加したりする権利が付与されます。

スケジュールされた CMR クラウド会議では、参加者の CMR クラウド参加エクスペリエンスに制限があります。この制限は、Outlook 予定表の統合を有効にしていない Mac ユーザや Windows ユーザです。サーバの制限により、これらの展開シナリオへの参加者は、Cisco Webex を使用することでのみミーティングに参加できます。ホストはすべてのエクスペリエンスを享受し、アドホック CMR クラウド会議への参加を招待されたユーザも同様に享受できます。

CTIコントロールモードのユーザは、Webex から参加するのではなく直接参加できます。

次の表は、ミーティング参加方法に関する Cisco Meeting Server としての Jabber サポートの一覧です。

ミーティングに参加	Jabber のサポート
ウェルカムページのクロスリリースからミーティングに参加	N
予定表からミーティングに参加	N
SIP URL としてミーティングに参加	Y
HTTP リンクとしてミーティングに参加	Y
ミーティング番号によるミーティング参加	Y

ミーティングに参加	Jabber のサポート
PIN (ホストとゲスト) を使用したミーティング参加	代わりに会議室番号を使用
ミーティングにもう一度参加する	Y



- (注) リリース 12.7 では、Jabber のデスクトップユーザは Jabber または Webex からミーティングに参加できます。管理者は、クライアントが使用するデフォルトを設定できます。この場合、選択はクライアントに表示されません。

次の表は、Cisco Jabber がクライアントにサポートされている CMR コントロールの一覧を示します。

コントロール	Jabber for Windows	Jabber for Mac	Jabber for Android	Jabber for iPhone/iPad	Jabber ソフトフォン for VDI
デバイスインジケータ (ビデオと音声)	Y	Y	N	N	Y
アクティブスピーカー	Y	Y	Y	Y	Y
参加者リスト (ホストとゲスト)	Y	Y	Y	Y	Y
ホストの指名	Y	Y	Y	Y	Y
ミュート/ミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
全員をミュート/全員をミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
自己ミュート/ミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
参加者の切断	Y	Y	Y	Y	Y
ロビーのユーザーを許可する	Y	Y	Y	Y	Y
ロビーで待機中	Y	Y	Y	Y	Y
会議の終了	Y	Y	Y	Y	Y

コントロール	Jabber for Windows	Jabber for Mac	Jabber for Android	Jabber for iPhone/iPad	Jabber ソフトフォン for VDI
ミーティングの退室とホストの割り当て	Y	Y	Y	Y	Y
ミーティングをロックまたはロック解除する	Y	Y	Y	Y	Y
録音の開始および停止	Y	Y	Y	Y	Y
ミーティングリンクのコピー	Y	Y	N	N	Y
ビデオレイアウト	Y	Y	Y	Y	Y
デスクトップ共有の送受信	Y	Y	Y	Y	Y
共有レイアウトの変更	Y	Y	Y	Y	Y
会議の情報	Y	Y	N	N	Y
録音の一時停止/再開	Y	Y	N	N	Y
参加者とチームのペアリング	Y	Y	N	N	Y
参加者の追加	N	N	N	N	N
モバイル Remote Access	Y	Y	Y	Y	Y

始める前に

Webex Meetings では、Webex Meeting Center ビデオ (CMR) のクラウドが利用できます。

ステップ1 Collaboration Meeting Rooms の設定

詳細については、<https://help.webex.com/> を参照してください。

- サイトの管理—<https://help.webex.com/en-us/6maub2/Configure-Webex-Meetings-in-Cisco-Webex-Site-Administration>

- 制御ハブ—<https://help.webex.com/en-us/n8pgczj/Configure-Teleconferencing-Options-for-a-Webex-Site-in-Cisco-Webex-Control-Hub>

- ステップ 2** Cisco Webex Meetings のユーザに対してコラボレーション会議室 (Collaboration Meeting Rooms) が有効にします。
- ステップ 3** お使いの Webex サイトの共通アイデンティティ (CI) を有効にします。
- Webex サイトで CI を有効化していない場合、Jabber からのミーティングに参加するユーザは、音声とビデオの制御のみを取得できます。また、これらの画面を共有することもできます。
- ステップ 4** Collaboration Meeting Rooms 機能では SIP URI が使用されるので、Cisco Unified Communications Manager のユーザに対して URI ダイアルを有効にする必要があります。URI ダイアルの詳細については、*URI ダイアル* のトピックを参照してください。

ブリッジのエスカレーション

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ブリッジエスカレーションを使用すると、グループチャットを即座に電話会議へとエスカレーションできます。参加者は自動的に追加されるので、参加者を電話会議にマージする必要はありません。

- ステップ 1** Cisco Jabber クライアントでブリッジエスカレーションを有効にするには、jabber-config.xml ファイルで EnableBridgeConferencing パラメータを true に設定します。
- ステップ 2** (任意) jabber-config.xml ファイルで、UserBridgeUriAdmin パラメータにルーム URI のマスクを指定します。マスクを指定しない場合、ユーザはクライアントで DN または SIP URI を入力できます。
- ステップ 3** URI ダイアルを有効にして、ユーザが電話会議番号の SIP URI を入力できるようにします。URI ダイアルの詳細については、*URI ダイアル* のトピックを参照してください。

コールパーク

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

コールパークを使用すれば、通話を保留にして、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話でその通話を取ることができます。コールパークは有効である必要があります、内線番号はクラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ノードごとに定義する必要があります。コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。

コールパークを有効にするには、次の作業を実行します。詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ステップ1 クラスタ全体のコールパークの設定

(オプション) クラスタ全体のコールパークを設定するか、ステップ3の手順を使用してクラスタ内の個別のノードにコールパークを設定します。

ステップ2 パーティションの設定

コールパーク番号を追加するためのパーティションを作成します。

ステップ3 コールパーク番号の設定

クラスタ内のノード全体でコールパークを使用するためのコールパーク番号を設定します。

コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。各コールパーク内線番号にパークできるコールは1つだけです。

コールピックアップ

コールピックアップ機能により、ユーザは自分以外の電話番号に着信したコールに応答できます。コールピックアップグループがディレクトリ番号を割り当てました。Cisco Unified

Communications Manager (Unified CM) は、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。ユーザは [**ピックアップ (Pickup)**] を選択してコールに応答します。

グループ コール ピックアップ

この設定により、ユーザは別のグループの着信通話を受け取ることができます。ユーザがグループ ピックアップ番号を入力して、**ピックアップ** を選択すると、Unified CM は適切なコールピックアップ グループ番号に自動的にダイヤルします。ユーザは、そのグループで利用可能な通話をピックアップできます。

他のグループのピックアップ

他のグループピックアップ機能を使用すると、ユーザは自分のグループに関連付けられているグループ内の着信コールをピックアップできます。ユーザが [**その他のピックアップ (Other Pickup)**] を選択すると、Unified CM は関連付けられているグループ内の着信コールを自動的に検索しコール接続を確立します。

ダイレクト コール ピックアップ

この設定を使用すると、ユーザはディレクトリ番号への着信コールをピックアップできます。ユーザがディレクトリ番号を入力して、**ピックアップ** を選択すると、Unified CM は着信コールを接続します。

コールピックアップを有効にするには、サポートするコールピックアップのタイプに応じて、jabber-config.xml ファイルで次のパラメータを使用します。

```
<Policies>
  <EnableCallPickup>true</EnableCallPickup>
  <EnableGroupCallPickup>true</EnableGroupCallPickup>
  <EnableOtherGroupPickup>true</EnableOtherGroupPickup>
  <EnableHuntGroup>true</EnableHuntGroup>
</Policies>
```

コール ピックアップの設定の詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

コールピックアップ通知

着信コールが複数ある場合は、「コールピックアップ」という通知が表示されます。ユーザはコールに応答すると、呼び出し時間が最長の着信コールに接続されます。

デスクフォンモード

デスクフォンモードでは、次の制約事項が適用されます。

- Unified CM の通知設定は、ピックアップグループではサポートされません。「*CallerA -> CallerB*」というコール ピックアップ通知が表示されます。
- 音声と映像に対する Unified CM の設定はサポートされません。常に、ビジュアルアラートが表示されます。

共用回線の動作

デスクフォンと、共有回線を備えたコンピューターでの音声も使用しているユーザに対しては、次の制限が適用されます。

- 使用可能なコールがない場合にデスクフォンを使用してコールのピックアップを試みると、ソフトフォンに「*No call available for PickUp* (ピックアップできるコールなし)」というメッセージが表示されます。
- コールが利用できない場合にデスクフォンを使用してコールのピックアップを試みると、ソフトフォンに「ピックアップ可能コールなし (*No call available for PickUp*)」というメッセージがクライアントで表示されます。

ユーザは関連付けられたグループのメンバーではありません

ユーザが関連グループのメンバーではないときに、別のピックアップグループにコールが着信した場合：

- 着信コールをピックアップするのにダイレクトコールピックアップが使用できます。
- グループピックアップ機能は動作しません。

グループコールピックアップ機能およびダイレクトピックアップ機能の使用時に予想される動作

グループコールピックアップ機能およびダイレクトピックアップ機能の使用時に予想される動作は、次のとおりです。

- 無効な数字を入力すると
 - コンピュータモードの音声: 会話ウィンドウが表示され、即座にアナウンサーが聞こえます。
 - デスクフォンモード: 会話ウィンドウ、高速ビジートーン、またはアナウンサーが発生し、その後に高速ビジートーンが続き、「ピックアップ失敗」のエラーメッセージが表示されます。
- アクティブなコールがない状態で有効な番号を入力すると、次のようにピックアップできます。
 - コンピュータモードの音声: ヘッドセットのトーン、会話ウィンドウが表示されず、「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。
 - デスクフォンモード: 会話ウィンドウなし、エラーメッセージ「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。
- 関連グループのディレクトリ番号を入力したが、その時点でピックアップできるコールがない場合:
 - コンピュータモードの音声: ヘッドセットのトーン、会話ウィンドウが表示されず、「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。

- デスクフォンモード：会話ウィンドウなし、エラーメッセージ「*No call available for pickup*（ピックアップできるコールなし）」のエラーメッセージが表示されます。
- 同じ Unified CM ノードに属すが関連グループにはない電話のディレクトリ番号を入力した場合：
 - コンピュータモードの音声：会話ウィンドウの表示、高速ビジー音。
 - デスクフォンモード：会話ウィンドウの表示、高速ビジー音、「*Pickup faile*（ピックアップ失敗）」のエラーメッセージが表示されます。
- 有効なグループの最初の桁を入力した場合：
 - コンピュータモードの音声：ヘッドセットにトーン、会話ウィンドウの表示、15 秒後にアナンシエータ、それに続いて高速ビジー音。
 - デスクフォンモード：会話ウィンドウの表示、15 秒後にアナンシエータ、高速ビジー音、「*Pickup faile*（ピックアップ失敗）」のエラーメッセージが表示されます。。

コールピックアップグループに含まれていないデスクフォンを使用したコールピックアップユーザが、コールピックアップグループ外のデスクフォンからコールピックアップをしようとすると、一瞬、会話ウィンドウが表示されます。ユーザがコールピックアップグループのメンバーでない場合は、そのユーザによるコールピックアップ機能の使用を設定しないでください。

オリジナルの受信者情報が使用不可

Unified CM の自動コールピックアップ有効 (*Auto Call Pickup Enabled*) が `true` に設定されている場合に、コールをコンピュータの音声 (*audio-on-computer*) モードでピックアップすると、クライアントで受信者情報を使用できなくなります。設定が `false` の場合は、受信者情報を利用できます。

コールピックアップグループの設定

コールピックアップグループ機能により、ユーザは自分のグループ内の着信コールをピックアップできます。

ステップ 1 [Cisco Unified Communication Manager]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] の順に選択します。

[コールピックアップグループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[コール ピックアップ グループの設定 (Call Pickup Group Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ 4 コール ピックアップ グループの情報を入力します。

- a) コール ピックアップ グループに対して一意の名前を指定します。
- b) コール ピックアップ グループに対して一意の電話番号を指定します。
- c) 説明を入力します。
- d) パーティションを選択します。

ステップ 5 (任意) [コール ピックアップ グループの通知設定 (Call Pickup Group Notification Settings)]セクションで、音声通知または視覚的通知を設定します。

- a) 通知ポリシーを選択します。
- b) 通知タイマーを指定します。

コール ピックアップ グループの通知設定の詳細については、関連する Cisco Unified Communications Manager のマニュアルでコール ピックアップに関するトピックを参照してください。

ステップ 6 保存を選択します。

次のタスク

電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てます。

電話番号の割り当て

電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てます。コール ピックアップ グループに割り当てられた電話番号だけが、コール ピックアップ、グループ コール ピックアップ、他のグループ ピックアップ、ダイレクト コール ピックアップを使用できます。

始める前に

電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てる前に、コール ピックアップ グループを作成する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次のいずれかの方法で、電話番号にコール ピックアップ グループを割り当てます。

- [コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択し、電話番号を検索して選択し、[コール転送とコール ピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] エリアで、コール ピックアップ グループのドロップダウンリストからコール ピックアップ グループを選択します。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、電話を検索して選択し、[関連付け情報 (Association Information)] リストで、コール ピックアップ グループを割り当てる電話番号を選択します。

ステップ3 データベースに変更を保存するには、[保存 (Save)] を選択します。

他のコール ピックアップの設定

他グループピックアップ機能を使用すると、ユーザは関連グループの着信コールをピックアップできます。ユーザが [他グループ (Other Pickup)] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は関連グループ内の着信コールを自動的に検索し、コール接続を実行します。

始める前に

開始する前に、コール ピックアップ グループを設定してください。

ステップ1 Cisco Unified Communication Manager Administration インターフェイスを開きます。

ステップ2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)] の順に選択します。

[コール ピックアップ グループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ3 コール ピックアップ グループを選択します。

[コール ピックアップ グループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ4 [関連付け先コール ピックアップ グループ情報 (Associated Call Pickup Group Information)] セクションでは、以下を実行できます。

- コール ピックアップ グループを検索し、現在関連付けられているコール ピックアップ グループに追加する。
- 関連付けられているコール ピックアップ グループの順序を変更する、またはコール ピックアップ グループを削除する。

ステップ5 保存を選択します。

ダイレクト コール ピックアップの設定

ダイレクトコールピックアップ機能を使用すると、着信コールを直接ピックアップできます。ユーザはクライアントに電話番号を入力し、[ピックアップ (Pickup)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager は関連するグループ メカニズムを使用して、ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能を使って着信コールをピックアップできるかどうかを制御します。

ダイレクト コール ピックアップを有効にするには、ユーザの関連グループに電話番号が属するピックアップグループを含める必要があります。

ユーザがこの機能を起動し、着信コールをピックアップする電話番号を入力すると、ユーザは指定した電話に着信するコールに接続されます。そのコールが電話番号が属するコールピックアップグループ内で最も長く鳴っているコールかどうかは問われません。

ステップ1 コール ピックアップ グループを設定し、関連グループを追加します。関連グループのリストには10グループまで含めることができます。

詳細については、他のグループピックアップ機能に対するピックアップグループの定義に関するトピックを参照してください。

ステップ2 Auto Call Pickup Enabled サービスパラメータを有効にして、ダイレクトコールピックアップでコールに自動的に応答するようにします。

詳細については、自動コールピックアップの設定に関するトピックを参照してください。

自動コール ピックアップ

Auto Call Pickup Enabled サービスパラメータを有効にすると、コールピックアップ、グループピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップを自動化できます。このパラメータが有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが電話で適切なピックアップを選択すると、ユーザのピックアップグループ、他のピックアップグループ、またはユーザのグループに関連付けられているピックアップグループ内の着信コールにユーザを自動的に接続します。この処理に必要なのは1回のキーストロークだけです。

自動コールピックアップ機能はユーザのグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザがクライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択すると、Cisco Unified Communications Managerはグループ内の着信コールを検索し、コール接続を実行します。自動化が有効になっていない場合、ユーザは[ピックアップ (Pickup)]を選択してコールに応答し、コール接続を確立する必要があります。

グループコールピックアップ自動化機能は、他のピックアップグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは他のピックアップグループのグループ番号を入力し、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択します。ピックアップグループ番号を受信すると、Cisco Unified Communications Managerはコール接続を実行します。グループコールピックアップ自動化機能が有効になっていない場合は、他のピックアップグループのグループ番号にダイヤルして、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択し、コールに応答して接続を確立します。

他のグループピックアップ自動化機能は、ユーザのグループに関連付けられているグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは、クライアントで[その他のピックアップ (Other Pickup)]を選択します。Cisco Unified Communications Managerは関連付けられているグループ内の着信コールを管理者が[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group

Configuration)]ウィンドウに入力した順序で検索し、コールが見つかりとコール接続を実行します。自動化が有効になっていない場合、ユーザは[その他のピックアップ (Other Pickup)]を選択し、コールに応答してコール接続を確立する必要があります。

ダイレクトコールピックアップ自動化機能は、ユーザのグループに関連付けられているグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは鳴っている電話の電話番号を入力し、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択します。電話番号を受信すると、Cisco Unified Communications Manager はコール接続を実行します。ダイレクトコールピックアップ自動化機能が有効になっていない場合、ユーザは鳴っている電話の電話番号にダイヤルして、[ピックアップ (Pickup)]を選択します。すると、ユーザの電話でコールが鳴るので、それに応答して接続を確立する必要があります。

コールピックアップの詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

自動コール ピックアップの設定

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。
- ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストからサーバを選択し、次に、[サービス (Service)]ドロップダウンリストから [Cisco Call Manager]サービスを選択します。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (機能: コールピックアップ) (Clusterwide Parameters (Feature - Call Pickup))]セクションで、[自動コールピックアップの有効化 (Auto Call Pickup Enabled)]に対して次のいずれかを選択します。

- true : 自動コールピックアップ機能が有効になります。
- false : 自動コールピックアップ機能は有効になりません。これがデフォルト値です。

- ステップ 5 保存を選択します。

Dial via Office

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—



重要 Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能が有効になっている場合は、次の機能がサポートされません。

- URI ダイヤル
- セキュア電話

DvO 機能と組み合わせて使用できるユーザ制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以降でのみ使用可能です。タイマー制御のボイスメールの無効化は Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降で使用できます。

社内ネットワークの外部にいる場合は、Expressway for Mobile and Remote Access 経由で DvO-R コールを行うことができます。DvO-R は、Cisco Expressway X8.7 および Cisco Unified Communications Manager 11.0(1a)SU1 でサポートされています。

DvO 機能は、ユーザが Expressway for Mobile and Remote Access を使用して企業ネットワークに接続する場合にはサポートされません。

DvO 機能を使用すると、ユーザはデバイスのモバイル ボイス ネットワークを使用して、勤務先番号で Cisco Jabber 発信コールを開始できます。

Cisco Jabber は DvO-R (DvO-リバース) コールをサポートしており、次のように動作します。

1. ユーザが DvO-R コールを開始します。
2. クライアントは、Cisco Unified Communications Manager に携帯電話番号にコールするよう通知します。
3. Cisco Unified Communications Manager は携帯電話番号にコールして接続します。
4. Cisco Unified Communications Manager は、ユーザがダイヤルした番号にコールして接続します。
5. Cisco Unified Communications Manager は 2 つのセグメントに接続します。
6. ユーザおよび着信者は、通常のコールと同様に続けます。

着信コールは、ユーザがクライアントで設定したコール オプションに従い、モバイル コネク トまたは Voice over IP を使用します。Dial via Office が動作するために、モバイル コネク トは必要ありません。ただし、勤務先番号に電話がかかってきたときに、ネイティブの携帯電話番号で呼び出し音を鳴らすように、モバイル コネク トを有効にすることをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager ユーザ ページから、モバイル コネク トを有効または無効にしたり、設定を使用してモバイルコネク トの動作を調整したりすることができます (たとえば、時間帯ルーティングや呼び出し前の遅延タイマーの設定など)。モバイル コネク トのセットアップの詳細については、「モバイルコネク トのセットアップ」のトピックを参照してください。



(注) 次の状況では、ユーザは Cisco Jabber で着信コールを受信しません。

- ユーザが任意のネットワークで [モバイル ボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)] コール オプションを選択し、かつデバイスでシングルナンバー リーチ (SNR) が設定されていない場合は、Cisco Jabber で着信コールを受信されません。
- ユーザが任意のネットワークで [モバイル ボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)] コール オプションを選択したときに、[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] でシングルナンバー リーチ (SNR) が設定されていた場合、ユーザは [呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] で設定されている時間を超えて Cisco Jabber で着信コールを受信しません。

次の表は、着信コールと発信コールに使用するコールメソッドについて説明します。コールメソッド (VoIP、モバイルコネク、DvO-R、またはネイティブセルラー コール) は、選択されたコール オプションとネットワーク接続によって異なります。

表 1:異なるネットワーク接続を通じたコールオプションで使用するコールメソッド

接続	コールオプション							
	Voice over IP		モバイル ボイス ネットワーク		[自動選択 (Autoselect)]			
 企業 Wi-Fi	発信 : VoIP	着信 : VoIP	発信 : DvO-R	着信 : モバイルコ ネクト	発信 : VoIP		着信 : VoIP	
 企業外 Wi-Fi					発信 : DvO-R		着信 : モバイルコ ネクト	
 モバイル ネット ワーク (3G、4G)					発信 : DvO-R		着信 : モバイルコ ネクト	
電話サービスが未 登録	発信ネイティブセルラー コール						着信モバイルコネク	

Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能を設定するには、次の手順を行う必要があります。

1. DvO-R をサポートするための Cisco Unified Communications Manager を設定します。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager をセットアップして DvO をサポートする」のトピックを参照してください。

2. iPhone または Android 用の各 Cisco Dual Mode デバイスで DvO を有効にします。詳細については、「各デバイスに対する *Dial via Office* の設定」のトピックを参照してください。

Dial via Office をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定

Dial via Office - リバース (DvO-R) をサポートするように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を行います。

1. 次の手順のいずれかまたは両方を実行します。
 - エンタープライズ機能アクセス番号の設定
 - モビリティ プロファイルの設定
2. 「デバイス *COP* ファイルのバージョンの確認」の手順を完了します。
3. 必要な場合は、モバイル ID 電話番号へのコールを発信ゲートウェイにルーティングするアプリケーションダイヤルルールを作成します。モバイル ID 電話番号の形式がアプリケーションダイヤルルールと一致することを確認します。

エンタープライズ機能アクセス番号の設定

Dial via Office - リバースを使用するすべての Cisco Jabber コールに対してエンタープライズ機能アクセス番号を設定するには、次の手順を使用します。

エンタープライズ機能アクセス番号は、この目的のために別の番号がモビリティプロファイルに設定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager が、携帯電話およびダイヤル番号とのコールに使用する番号です。

始める前に

- エンタープライズ機能アクセス番号 (EFAN) として使用するダイヤルイン方式 (DID) 番号を予約します。モビリティプロファイルを設定済みの場合、この手順はオプションです。
- この番号に要求される形式を決定します。選択する正確な値は、ゲートウェイが渡す電話番号に依存します (たとえば、7桁または10桁)。エンタープライズ機能アクセス番号はルーティング可能な番号である必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)]>[モビリティ (Mobility)]>[エンタープライズ機能アクセス番号設定 (Enterprise Feature Access Number Configuration)]を選択します。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)]を選択します。

ステップ 4 [番号 (Number)]フィールドに、エンタープライズ機能アクセス番号を入力します。

システム内で一意の DID 番号を入力します。

国際電話をサポートするには、この番号の前に + を付けます。

ステップ 5 [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウン リストから、エンタープライズ機能アクセスに必要な DID のパーティションを選択します。

このパーティションは、[リモート接続先用の着信コーリングサーチスペース (Inbound Calling Search Space for Remote Destination)] 設定の [クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))] セクションの、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] で設定します。この設定は、ゲートウェイまたはトランクの着信コーリングサーチスペースか、デバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで割り当てられたコーリングサーチスペースを指します。

ユーザが DvO コールバック番号を代替番号で設定した場合は、必ず代替電話番号の接続先にルートされるようにトランクのコーリングサーチスペース (CSS) を設定します。

ステップ 6 [説明 (Description)] フィールドにモビリティ エンタープライズ機能アクセス番号の説明を入力します。

ステップ 7 (任意) このエンタープライズ機能アクセス番号をこのシステムのデフォルトにする場合は、[デフォルトのエンタープライズ機能アクセス番号 (Default Enterprise Feature Access Number)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 保存を選択します。

モビリティ プロファイルの設定

Cisco Jabber デバイスのモビリティ プロファイルを設定するには、次の手順を使用します。エンタープライズ機能アクセス番号を設定済みの場合、この手順は任意です。

モビリティ プロファイルを使用して、モバイルクライアントの Dial via Office-Reverse を設定できます。モビリティ プロファイルをセットアップしたら、これをユーザまたはユーザのグループ (ある地域や場所にいるユーザ) に割り当てることができます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティ プロファイル (Mobility Profile)] を選択します。

ステップ 3 [モビリティプロファイル情報 (Mobility Profile Information)] セクションで、[名前 (Name)] フィールドにモビリティ プロファイルの説明的な名前を入力します。

ステップ 4 [Dial-via-Office-Reverse コールバック (Dial via Office-Reverse Callback)] セクションで、[コールバック発信者 ID (Callback Caller ID)] フィールドに、クライアントが Cisco Unified Communications Manager から受信するコールバック コールの発信者 ID を入力します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

デバイス COP ファイルのバージョンの確認

この Cisco Jabber リリース用の正しいデバイス COP ファイルを使用していることを確認するには、次の手順を使用します。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]の順に選択します。
- ステップ 3** [新規追加] をクリックします。
- ステップ 4** 電話タイプ (Phone Type) ドロップダウンリストから、iPhone 用 Cisco デュアルモード (Cisco Dual Mode for iPhone) 、または Android 用 Cisco デュアルモード (Cisco Dual Mode for Android) を選択します。
- ステップ 5** [次へ (Next)]をクリックします。
- ステップ 6** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]セクションまでスクロールダウンし、[ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示されることを確認します。
- [ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示された場合、COP ファイルはご使用のシステムにすでにインストールされています。
- [ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示されない場合は、正しい COP ファイルを探してダウンロードします。
-

各デバイスに対する Dial via Office の設定

各 TCT またはボットデバイスに対して、Dial Via Office - リバースをセットアップするには、次の手順を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	各ユーザのモビリティ ID を追加します。	
ステップ 2	各デバイスで Dial via Office を有効にします。	
ステップ 3	モバイル コネクトを有効にした場合は、モバイル コネクトが機能することを確認します。デスクフォンの内線に電話して、関連付けるモバイル ID で指定した電話番号が鳴ることを確認します。	

モビリティ ID の追加

モビリティ ID を追加し、モバイル デバイスの携帯電話番号を接続先番号として指定するには、次の手順を使用します。この接続先番号は Dial via Office やモバイル コネクトなどの機能で使用します。

モビリティ ID を追加するときは、1 つの番号だけ指定できます。モバイル デバイスの 2 つ目の携帯電話番号などの代替番号を指定する場合は、リモート接続先を設定できます。モビリティ ID の設定の特性は、リモート接続先の設定の特性と同じです。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)]セクションで [新しいモビリティ ID の追加 (Add a New Mobility Identity)]を選択します。

ステップ 4 接続先番号として携帯電話番号を入力します。

この番号をアウトバウンドゲートウェイにルーティングできる必要があります。通常、この番号は完全な E.164 番号です。

(注) ユーザの Dial via Office - リバース機能を有効にするには、ユーザのモビリティ ID の接続先番号を入力する必要があります。

Dial via Office - リバースを有効にして、モビリティ ID の接続先番号を空のままにした場合は、次のようになります。

- モバイルデータ ネットワークと VPN の使用中にユーザが [自動選択 (Autoselect)]コール オプションを選択すると、電話サービスが接続できなくなります。
- あらゆるタイプのネットワークでユーザが [モバイルボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)]コール オプションを選択すると、電話サービスが接続できなくなります。
- 電話サービスが接続できない原因は、ログに示されません。

ステップ 5 コール タイマーの初期値を入力します。

これらの値によって、モバイル デバイスのクライアントで呼び出し音を鳴らす前に、モバイル サービス プロバイダーのボイスメールに通話がルーティングされることがなくなります。エンドユーザのモバイル ネットワークと動作するように、これらの値を調整することができます。詳細については、Cisco Unified Communications Manager のオンライン ヘルプを参照してください。

次に示すのは、Cisco Unified Communications Manager 9.x のモビリティ ID のタイマー情報の例です。

設定	推奨する初期値
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	3000
呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)	20000
呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)	0 (注) この設定は DVO-R コールには適用されません。

次に示すのは、Cisco Unified Communications Manager 10.x のモビリティ ID のタイマー情報の例です。

設定	推奨する初期値
ビジネス回線にダイヤルされたときに、* 秒経過してからこの電話の呼出音を鳴らす。*	0.0 秒
コールがボイスメールに直接転送されることを検出するまで * 秒待機して、このコールがこの電話のボイスメールに直接転送されないようにする。*	3.0 秒
この電話のボイスメールに接続しないように、電話の呼び出しを * 秒後に停止する。*	20.0 秒

ステップ 6 次のいずれかを実行します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以前 : [モバイル コネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスをオンにします。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 : [シングル ナンバー リーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 Dial via Office 機能をセットアップする場合は、[モビリティ プロファイル (Mobility Profile)] ドロップダウン リストで次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
空欄のまま	ユーザにエンタープライズ機能アクセス番号 (EFAN) を使用させる場合は、このオプションを選択します。
モビリティ プロファイル	ユーザが EFAN の代わりにモビリティ プロファイルを使用するようにする場合は、作成したモビリティ プロファイルを選択します。

ステップ 8 携帯番号に通話をルーティングするスケジュールを設定します。

ステップ 9 保存を選択します。

各デバイス上での Dial via Office の有効化

各デバイス上で Dial via Office を有効にするには、次の手順を使用します。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

- ステップ 3** [デバイス情報 (Device Information)] セクションの [Cisco Unified Mobile Communicator の有効化 (Enable Cisco Unified Mobile Communicator)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)] セクションの [再ルーティング用コーリング検索スペース (Rerouting Calling Search Space)] ドロップダウンリストで、DvO コールバック番号にコールをルートできるコーリング検索スペース (CSS) を選択します。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで [Dial via Office] ドロップダウンリストを [有効 (Enabled)] に設定します。
- ステップ 6** 保存を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。
- ステップ 8** 機能にアクセスするには、クライアントからログアウトして再度ログインするようにユーザに指示します。

(注) DVO が有効になっているデバイスは、Cisco Unified Communications Manager での登録時に問題が発生する恐れがあります。Cisco Unified Communications Manager 管理デバイスから該当するデバイスをリセットすると、この問題が修正されます。

次のタスク

この機能をテストしてください。

遠端カメラ制御 (FECC)

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

遠端カメラ制御 (FECC) をサポートしているコールでは、遠端カメラを調整してビデオ コール時の表示を鮮明にすることができます。ユーザがコールしているエンドポイントが FECC をサポートしている場合、ユーザは FECC を使用できます。

ユーザが FECC 対応エンドポイントにアクセス可能かどうかを設定できます。設定パラメータを無効にすると、エンドポイントが FECC に対応している場合でも、ユーザは遠端カメラのエンドポイントを制御できません。FECC を無効にすると、ユーザエクスペリエンスの観点から見ると、FECC 非対応のエンドポイントにダイヤルインするのと同じになります。

FECC を無効化するには、EnableFecc パラメータに false を設定します。このパラメータの詳細については、『Parameters Reference Guide』を参照してください。

制約事項

FECC はポイントツーポイントコールでのみサポートされ、複数のビデオ接続が同じブリッジに接続しているグループ コールや会議ではサポートされません。

FECC はソフトフォンモードでのみサポートされます。

フレキシブル DSCP 値

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン モード
可	可	可	可

フレキシブル DiffServ コードポイント (DSCP) を使用すると、異なる DSCP 値を指定して、ネットワーク上のオーディオストリームとビデオストリームを分離することができます。

クライアントで DSCP パケットのマーキングを有効または無効にするには、EnableDSCPPacketMarking パラメータを使用します。

DSCP 値は、音声コール、ビデオ コール、ビデオ コールの音声部分、テレプレゼンス コールの音声部分に個々に設定できます。帯域幅管理を適切に行い、オーディオストリームの低下を防止するには、広帯域幅のビデオストリームからオーディオストリームを分離します。これは、ネットワークで輻輳が発生した場合、または通話品質に影響が生じた場合に有効に作用します。

DSCP 値は、Cisco Unified Communications Manager で設定されます。詳細については、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「Configure Flexible DSCP Marking and Video Promotion Policy」セクションを参照してください。

ハントグループ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

すべてのクライアントに適用されます。

ハントグループは階層的に編成された回線のグループで、ハントグループリストの最初の番号が話中の場合は2番目の番号にダイヤルされます。2番目の番号が話中の場合は次の番号がダイヤルされるという具合に続きます。すべてのハントグループには、ハントパイロットと呼ばれるパイロット番号があります。ハントパイロットには、ハントパイロット番号および関連するハントリストが含まれています。ハントパイロットは、ネットワーク設計に柔軟性をもたらします。また、特定デバイスへの直接コールや特定数字パターンの組み込み、削除、変更のためのルートフィルタおよびハントリストを使用します。

ハントパイロット番号は、ユーザがダイヤルする番号です。ハントリストには、一連の回線グループが特定の順序で含まれています。回線グループは、特定の順序で並んだ一連の電話番号から成っています。この順序によって、着信コールで使用可能な電話番号の検索の進行が制御されます。単一の回線グループを複数のハントリストに表示できます。

Unified Communications Manager がルーティングするコールを定義されたハントリストに従って特定した後、Unified CM がハントリストで定義されている回線グループの順序に基づいて最初に使用可能なデバイスを検出します。

EnableHuntGroup パラメータを設定して、ユーザがハントグループにログインしたり、ログアウトしたりできるようにすることができます。PreventDeclineOnHuntCall パラメータを使用して、ユーザがハントグループからのコールを拒否できるかどうかをコントロールします。詳細については、*Parameters Reference Guide for Cisco Jabber* を参照してください。

Unified CM 9.x 以降では、応答がない場合にハントメンバーを自動ログアウトするように設定できます。ユーザがサインアウトすると、ユーザが自動署名されているか、手動でログアウトしたか、または Unified CM 管理者によってログアウトされたかにかかわらず、システムはログアウトの通知を表示します。

制限事項

デスクトップクライアントは、ユーザがハントグループにログインしたり、ハントグループからログアウトしたりする前に、コンピュータモードで音声を使用する必要があります。

回線グループ

回線グループを使用して、電話番号を選択する順序を指定できます。Cisco Unified Communications Manager は、コール分配アルゴリズムと無応答 (RNA) 予約のタイムアウト設定に基づいて、回線グループのアイドル状態または対応可能なメンバーにコールを分配します。

ユーザは、回線グループに属する DN へのコールを、ダイレクト コール ピックアップ機能を使用してピックアップすることはできません。

回線グループの設定

始める前に

電話番号を設定してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。

[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [回線グループ情報 (Line Group Information)] セクションに次の設定を入力します。

1. [回線グループ名 (Line Group Name)] フィールドに一意の名前を指定します。
2. [RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] に秒数を指定します。
3. 回線グループに適用する [分散アルゴリズム (Distribution Algorithm)] を選択します。

ステップ 5 [ハント オプション (Hunt Options)] セクションに次の設定を入力します。

- ドロップダウン リストから [無応答 (No Answer)] の値を選択します。
- [無応答時にハント メンバーを自動的にログアウト (Automatically Logout Hunt Member on No Answer)] を選択して、ハント リストの自動ログアウトを設定します。
- ドロップダウン リストから [ビジー (Busy)] の値を選択します。
- ドロップダウン リストから [使用不可 (Not Available)] の値を選択します。

ステップ 6 [回線グループ メンバー情報 (Line Group Member Information)] セクションでは、以下を実行できます。

- 回線グループに追加する電話番号またはルート パーティションを検索する。
- 回線グループ内の電話番号またはルート パーティションの順序を変更する。

- 回線グループから電話番号またはルートパーティションを削除する。

ステップ7 保存を選択します。

次のタスク

ハントリストを設定し、回線グループをハントリストに追加します。

ハントリスト

ハントリストには、一連の回線グループが特定の順序で含まれています。ハントリストは1つ以上のハントパイロットに関連付けられており、それらの回線グループにアクセスする順序を示します。この順序によって、着信コールで使用可能な電話番号の検索の進行が制御されます。

ハントリストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。定義されたハントリストに従って、Cisco Unified Communications Manager がルーティングするコールを決定した後、Cisco Unified Communications Manager は、ハントリストで定義されている回線グループの順序に基づいて1番目に使用可能なデバイスを検出します。

ハントリストには、回線グループだけを入れることができます。各ハントリストには、少なくとも1つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも1つの電話番号が含まれます。1つの回線グループが複数のハントリストに表示される場合があります。



- (注) グループコールピックアップ機能とダイレクトコールピックアップ機能では、ハントリストは使用されません。

ハントリストの設定

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ2 [コールルーティング (Call Routing)]>[ルート/ハント (Route/Hunt)]>[ハントリスト (Hunt List)]の順に選択します。

[グループの検索とハントリスト (Find and Hunt List Groups)]ウィンドウが開きます。

ステップ3 [新規追加 (Add New)]を選択します。

[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ4 [ハントリスト情報 (Hunt List Information)]セクションに次の設定を入力します。

1. [名前 (Name)]フィールドに一意の名前を指定します。
2. ハントリストの説明を入力します。

■ ハントリストへの回線グループの追加

3. ドロップダウンリストから [Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] を選択します。
4. ハントリストを保存すると、新しいハントリストのデフォルトとして [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List)] が選択されます。
5. このハントリストをボイスメールに使用する場合は、[ボイスメール用 (For Voice Mail Usage)] を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] を選択してハントリストを追加します。

次のタスク

回線グループをハントリストに追加します。

ハントリストへの回線グループの追加

始める前に

回線グループを構成して、ハントリストを設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。

[グループの検索とハントリスト (Find and Hunt List Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 回線グループを追加するハントリストを検索します。

ステップ 4 回線グループを追加するには、[回線グループの追加 (Add Line Group)] を選択します。

[ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [回線グループ (Line Group)] ドロップダウンリストから回線グループを選択します。

ステップ 6 回線グループを追加するには、[保存 (Save)] を選択します。

ステップ 7 さらに別の回線グループを追加するには、ステップ 4 ~ 6 を繰り返します。

ステップ 8 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 9 ハントリストをリセットするには、[リセット (Reset)] を選択します。ダイアログボックスが表示されたら、[リセット (Reset)] を選択します。

ハントパイロット

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。ハントパイロット

は、ネットワーク設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。ハントパイロットの詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ハントパイロットの設定オプションの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* の関連するマニュアルを参照してください。

ハントパイロットの設定

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 数字とワイルドカードを含む、ハントパイロットを入力します。

ステップ 5 [ハントリスト (Hunt List)] ドロップダウンリストからハントリストを選択します。

ステップ 6 [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウで追加の設定を入力します。ハントパイロットの設定の詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* の関連するマニュアルを参照してください。

ステップ 7 保存を選択します。

Jabber 間コール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	—

Jabber 間音声ビデオ コールは、*Cisco Unified Communications Manager* を使用せずに、2 つの Cisco Jabber クライアント間に基本的な通話機能を提供します。Cisco Jabber ユーザは Cisco

Unified Communications Manager に登録されていない場合でも、Cisco Jabber から Jabber 間コールを発信できます。



- (注)
- Jabber ツー Jabber コールは、Cisco Webex Messenger サービスのユーザ認証のみサポートしています。
 - Windows 版 Cisco Jabber クライアントが Jabber 間コール機能を使用する場合は、Internet Explorer 10 以降を実行することをお勧めします。この機能を以前のバージョンの Internet Explorer、または互換モードの Internet Explorer で使用すると、問題が発生する場合があります。これらの問題は、Cisco Jabber クライアントのログイン（非 SSO 設定）または Jabber 間コール機能（SSO 設定）に関連しています。

Jabber 間コールのエクスペリエンス

Jabber 間コールでは、Cisco Unified Communication Manager コールのすべての機能はサポートされていません。Jabber 間コールは、一度に 1 つの連絡先とだけ行うことができます。Jabber 間コールでは、ユーザについて次のシナリオが考えられます。

- モバイル用 Cisco Jabber クライアントは縦方向モードの HD ビデオをサポートしていません。HD ビデオを記録するには、コール中に電話機を縦方向から横方向モードに切り替える必要があります。
- 2 人のユーザが Jabber 間コールを相互に同時に開始すると、コードが自動的に接続されます。その場合、どちらのユーザも着信コール通知を受信しません。
- ユーザが Jabber 間コール中に別のコールを発信する必要がある場合、進行中のコールは、コールの相手が応答しない場合でも、即座に終了します。
- Jabber 間コール中に Jabber 間コールが着信した場合は、[コールを終了して応答 (End Call And Answer)] が表示されます。ユーザがこのボタンを選択すると、現行の Jabber 間コールは終了し、着信コールへの応答が行われます。
- モバイルクライアント用 Cisco Jabber での Jabber 間コールでは、次のシナリオが考えられます。
 - モバイル用 Cisco Jabber クライアントは縦方向モードの HD ビデオをサポートしていません。HD ビデオを記録するには、コール中に電話機を縦方向から横方向モードに切り替える必要があります。
 - ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを行うと、相手が応答しない場合でも、進行中の Jabber 間コールが直ちに終了します。
 - ユーザがモバイル通話中は、Jabber 間コールに応答できません。Jabber 間通話の着信は、不在着信としてリストされます。
 - ユーザが Jabber 間コール中にモバイル通話が着信した場合は、次のようになります。
 - iPhone では、相手が応答しない場合でも、Jabber 間コールが直ちに終了します。

- Android 電話では、相手が着信モバイル通話に応答した場合に、Jabber 間コールが直ちに終了します。

サポートされる着信機能

Jabber 間コール中は、次の機能がサポートされます。

- Jabber 間コールを終了する
- オーディオをミュートまたはミュート解除する
- ビデオを開始または停止する
- 音量コントロール
- セルフビデオを開始または停止する
- フロントカメラとバックカメラを切り替えるこの機能は、Cisco Jabber モバイルクライアントでのみ使用できます。

Jabber 間コールのクラウド展開

Jabber 間コールのクラウド展開では、SDP/HTTPS の設定が使用されます。クラウド展開の場合は、以下を確認してください。

- Jabber 間コール機能を使用するには、GoDaddy Class 2 Certification Authority Root Certificate ルート証明書をインストールします。この証明書名に関する警告を解決するには、必要な GoDaddy 証明書をインストールします。
- プロキシ サーバ バイパス リストに次のサーバを含めます。
 - <https://locus-a.wbx2.com/locus/api/v1>
 - <https://conv-a.wbx2.com/conversation/api/v1>

プロキシサーバリストの詳細については、『Cisco Jabber Deployment Guides』の「*Configure Proxy Settings*」を参照してください。

- UDP 経由の RTP/SRTP に対してメディアポートとプロトコルの次の範囲を有効にします：33434 ~ 33598 および 8000 ~ 8100。HTTPS 経由の Jabber 間コール設定の場合は、ポート 443 を有効にします。
- Jabber 間コールの機能を有効にする前に、次の作業を実行してください。
 - 組織を Cisco Common Identity サーバに登録するよう要求するには、シスコカスタマーサポート チームまたは Cisco Customer Success Manager にお問い合わせください。Common Identity サーバにユーザを追加するプロセスにはある程度時間がかかります。また Jabber 間コール機能にアクセスする必要があります。
 - シングル サインオン (SSO) のユーザについては、Common Identity の SSO を設定する必要があります。SSO の設定に関する詳細については、Cisco Webex Messenger のド

キュメント (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/webex-messenger/products-installation-guides-list.html>) を参照してください。

クラウド導入では、次のいずれかの方法によって、Cisco Webex Messenger 管理ツールで Jabber 間コールを設定します。

- [設定タブ (Configuration Tab)] セクションで [P2P 設定 (P2P settings)] を使用します。詳細については、『*Cisco Webex Messenger Administrator's Guide*』を参照してください。
- Cisco Webex Messenger 管理ツールのポリシーエディタで内部 VoIP (Internal VoIP) および外部 VoIP (External VoIP) 設定を使用します。Jabber 間コールのビデオ サービスは、[内部ビデオ (Internal Video)] および [外部ビデオ (External Video)] ポリシー アクションを使用して制御できます。詳細については、『*Cisco Webex Messenger Administration Guide*』の「*Policy Editor*」セクションを参照してください。Jabber 間コールは、ユーザのグループまたはすべてのユーザに対して有効にできます。

Jabber 間ハイブリッド モード

ハイブリッド モードでの Jabber 間コールのエクスペリエンス

Jabber 間コールと Cisco Unified Communications Manager コールを使用する場合には、Jabber 間の制限に加えて、次のシナリオが考えられます。

- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを行うと、相手が応答しない場合でも、進行中の Jabber 間コールが直ちに終了します。
- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを保留してから再開すると、Jabber 間コールが直ちに終了します。
- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを着信すると、通知と [コールを終了して応答 (End Call And Answer)] ボタンが表示されます。ユーザがこのボタンを選択すると、進行中の Jabber 間コールが終了し、着信コールへの応答が行われます。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コールを受信した場合は、進行中の Cisco Unified Communications Manager コールを保留にして新しいコールに応答できます。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コール中に Jabber 間コールを行うように選択すると、Jabber 間コールの参加者がコールに応答しない場合でも、Cisco Unified Communications Manager コールが直ちに保留になります。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コール中に Jabber 間コールに応答した場合は、Cisco Unified Communications Manager コールが直ちに保留になります。
- ユーザの回線が Cisco Unified Communications Manager でコールに自動応答するように設定されている場合、Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを受信すると、Jabber 間コールが通知なく直ちに終了し、Cisco Unified Communications Manager コールに応答します。

Jabber 間帯域幅

Jabber 間コールに使用される最大帯域幅（キロビット/秒単位）を指定します。コールのビデオ画質（解像度）は、この帯域幅制限に適合するように下げられます。この機能は J2JMaxBandwidthKbps パラメータを使用して設定されます。

このパラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameter Reference Guide*』を参照してください。

ボイスメールを使用しないユーザが通話無視できるようにする

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ボイスメールを使用しないユーザの場合は、[ボイスメールなし (No Voicemail)] プロファイルを選択します。Jabber では、これらのユーザに対して **通話無視する (Ignore call)** オプションが表示されます。

ボイスメールを使用しないデバイスのセットアップ

ボイスメールを使用しないデバイスを設定でき、ユーザは Jabber クライアントでの着信コールを無視できます。

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM IM およびプレゼンス管理から、デバイス > 電話機に移動します。
 - ステップ 2 デバイスを探して選択します。
 - ステップ 3 関連情報で、ディレクトリ番号を選択します。
 - ステップ 4 [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Settings)] で、[ボイスメールプロファイル] (Voice Mail Profile) の [NoVoicemail] を選択します。
 - ステップ 5 保存して設定の適用の順にクリックします。
-

携帯電話に移動

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

ユーザはアクティブな VoIP コールを、Cisco Jabber からモバイルネットワーク上の自分の携帯電話番号に転送できます。この機能は、ユーザが通話しながら Wi-Fi ネットワークを離れる場合（たとえば、建物を離れて車まで歩いていくときなど）や、Wi-Fi ネットワークを経由すると音声品質に問題がある場合に便利です。



(注) モバイルへの移動機能を使用するには、電話番号のある携帯電話ネットワークに接続する必要があります。ユーザは TCT または BOT デバイスを持っている必要があります。

この機能を有効にする方法は2通りあります。無効にすることもできます。

実装方法	説明	手順
ハンドオフ DN	<p>モバイルデバイスは、モバイルネットワークを使用して Cisco Unified Communications Manager を呼び出します。</p> <p>この方法には、ダイヤルイン (DID) 番号が必要です。</p> <p>サービス プロバイダーは、設定の DID の値を正確に提供する必要があります。また、Cisco IOS ゲートウェイが Cisco Unified Communications Manager への通信に H.323 または SIP を使用する場合、Cisco IOS を使用して、ゲートウェイで着信者番号を操作し、番号をハンドオフ DN で設定したとおりに Cisco Unified Communications Manager に表示することができます。</p> <p>この方法は、iPod Touch デバイスでは動作しません。</p>	<p>詳細については、「VoIP からモバイルネットワークへのハンドオフの有効化」のトピックを参照してください。</p>
モビリティ ソフトキー	<p>Cisco Unified Communications Manager は、モバイルデバイスの PSTN モバイルサービスプロバイダーの電話番号に発信します。</p>	<p>詳細については、「VoIP からモバイルネットワークへの転送の有効化」のトピックを参照してください。</p>
上記以外	<p>ユーザから利用できるようにしない場合は、この機能を無効にします。</p>	<p>TCT デバイスページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに対して [無効 (Disabled)] を選択します。</p> <p>BOT デバイスページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに対して [無効 (Disabled)] を選択します。</p>

VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフの有効化

Cisco Unified Communications Manager が VoIP からモバイル ネットワークにアクティブ コールをハンドオフするために使用できる、電話番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager がユーザを認識できるようにするために、ユーザの発信者 ID をモビリティ ID と一致させます。VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフをサポートするように、TCT デバイスおよびモバイル デバイスをセットアップします。

Cisco Unified Communications Manager が VoIP からモバイル ネットワークにアクティブ コールをハンドオフするために使用できる、電話番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager がユーザを認識できるようにするために、ユーザの発信者 ID をモビリティ ID と一致させます。VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフをサポートするように、BOT デバイスおよびモバイル デバイスをセットアップします。

ハンドオフ DN の設定

始める前に

必要な値を識別します。選択する値は、ゲートウェイが渡す電話番号によって異なります（たとえば、7 桁や 10 桁など）。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)]>[モビリティ (Mobility)]>[ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)]を選択します。

ステップ 3 デバイスが VoIP コールをモバイル ネットワークにハンドオフする際に使用するダイヤルイン (DID) 番号のハンドオフ番号を入力します。

サービス プロバイダーは、設定の DID の値を正確に提供する必要があります。また、H.323 または SIP を使用して Cisco Unified Communications Manager に通信する Cisco IOS ゲートウェイの場合は、Cisco IOS を使用して、ゲートウェイで着信者番号を操作し、その番号をハンドオフ番号で設定したとおりに Cisco Unified Communications Manager に表示することができます。

(注) Cisco Unified Communications Manager 内でトランスレーション パターンや他の操作を使用して、受信 DID 番号を設定済みハンドオフ DN と照合することはできません。

ステップ 4 ハンドオフ DID の [ルート パーティション (Route Partition)]を選択します。

このパーティションは、リモート接続先インバウンドコーリング検索スペース (CSS) で参照するコーリング検索スペースで、使用できる必要があります。具体的に参照されるコーリング検索スペースは、ゲートウェイ、トランクの着信 CSS またはリモート接続先プロファイルの CSS です。

この機能は、このページのその他のオプションを使用しません。

ステップ 5 保存を選択します。

発信者 ID とモビリティ ID の一致

許可された電話機だけが外線発信できるようにするには、システム内に設定された電話機から発信されるようにする必要があります。そのため、システムは要求元電話番号の発信者 ID と、既存のモビリティ ID との照合を試みます。デフォルトでは、デバイスがハンドオフ機能を起動したときに、ゲートウェイから Cisco Unified Communications Manager に渡される発信者 ID が、そのデバイス用に入力したモビリティ ID 番号と完全に一致している必要があります。

ただし、システムの設定によっては、こうした番号が完全一致しない場合があります。たとえば、モビリティ ID 番号に国番号が含まれ、発信者 ID には含まれないことがあります。その場合は、部分一致を認識するようシステムを設定する必要があります。

異なるエリアコードまたは異なる国に、同じ電話番号が存在する可能性について考えておく必要があります。また、サービスプロバイダーが可変桁数の通話を識別する場合は、部分一致に影響があることに注意してください。たとえば、ローカルコールは 7 桁 (555 0123 など) を使用して識別されるが、エリア外コールは 10 桁 (408 555 0199 など) を使用して識別されることがあります。

始める前に

モビリティ ID を設定します。詳細については、「モビリティ ID の追加」のトピックを参照してください。

この手順をすべて行う必要があるかどうかを確認するには、次の手順を行ってください。モバイルデバイスからシステムにダイヤルインし、発信者 ID の値と、モビリティ ID の宛先番号を比較します。値が一致しない場合は、この手順に従う必要があります。予想されるすべてのロケールおよびエリアコード内で支給されたデバイスに対して、この手順を繰り返します。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。
 - ステップ 3 アクティブ サーバを選択します。
 - ステップ 4 [Cisco CallManager (アクティブ) (Cisco CallManager (Active))]サービスを選択します。
 - ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))]セクションまでスクロールします。
 - ステップ 6 [発信者 ID とリモート接続先の照合 (Matching Caller ID with Remote Destination)]を選択し、この値に関する重要な情報を確認します。
 - ステップ 7 [部分一致による発信者 ID とリモート接続先の照合 (Partial Match for Matching Caller ID with Remote Destination)]を選択します。
 - ステップ 8 [発信者 ID の部分一致の桁数 (Number of Digits for Caller ID Partial Match)]を選択し、この値に関する重要な要件を確認します。
 - ステップ 9 部分一致に必要な桁数を入力します。
 - ステップ 10 保存を選択します。
-

ハンドオフのためのユーザおよびデバイス設定のセットアップ

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でユーザ デバイスを設定します。
- ユーザのモビリティ ID を設定します。

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] インターフェイスで、BOT デバイスページに移動し、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use Handoff DN Feature)] を選択します。

iPod Touch デバイスでは、この方法は割り当てないでください。代わりにモビリティ ソフトキーの方法を使用します。

ステップ 2 [Cisco Unified CM Administration] インターフェイスで、BOT デバイスページに移動し、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use Handoff DN Feature)] を選択します。

ステップ 3 iOS デバイスで、[設定 (Settings)] > [電話 (Phone)] > [発信者 ID を表示 (Show My Caller ID)] をタップして、発信者 ID がオンになっていることを確認します。

ステップ 4 一部の Android デバイスおよびオペレーティングシステムの組み合わせでは、発信者 ID がオンになっていることを確認できます。Android デバイスで電話アプリケーションを開き、[メニュー (Menu)] > [通話設定 (Call Settings)] > [追加設定 (Additional settings)] > [発信者 ID (Caller ID)] > [番号の表示 (Show Number)] をタップします。

ステップ 5 この機能をテストしてください。

VoIP からモバイル ネットワークへの転送の有効化

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 システム レベル設定で、電話のコール状態が「接続中 (Connected)」および「オンフック (On-hook)」のときに、[モビリティ (Mobility)] ソフトキーが表示されることを確認します。

- [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。
- デバイスにモバイルコネクトを設定したときに選択したのと同じソフトキーテンプレートを選択します。
- 右上の[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] を選択します。
- コール状態のドロップダウンリストで [オンフック (On-hook)] 状態を選択し、選択されているソフトキーのリストに [モビリティ (Mobility)] キーが入っていることを確認します。
- コール状態のドロップダウンリストで [接続中 (Connected)] 状態を選択し、選択されているソフトキーのリストに [モビリティ (Mobility)] キーが入っていることを確認します。

ステップ 3 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager のユーザ単位およびデバイス単位の設定で、特定のデバイスからコールをモバイル ボイス ネットワークに転送するときに [モビリティ (Mobility)] ソフトキーを使用するように設定します。モバイルデバイスに対してモビリティ ID およびモバイルコネクットの両方をセットアップしていることを確認します。転送機能が動作するようになったら、ユーザは自分の都合に合わせて、転送機能をいじることなくモバイルコネクットを有効にしたり無効にしたりできるようになります。

デバイスが iPod Touch の場合は、代替電話番号 (ユーザの携帯電話など) を使用してモビリティ ID を設定できます。

- a) デバイス ページの [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] を選択します。
- b) [モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] を選択します。通常、この値は [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] と同じです。
- c) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションの [モバイル ネットワークへの転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションで、[モビリティ ソフトキーの使用 (Use Mobility Softkey)] または [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use HandoffDN Feature)] を選択します。

ステップ 5 [ユーザ ロケール (User Locale)] フィールドで、[英語、アメリカ合衆国 (English, United States)] を選択します。

ステップ 6 保存を選択します。

ステップ 7 [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。

ステップ 8 機能にアクセスするには、クライアントからログアウトして再度ログインするようにユーザに指示します。

次のタスク

VoIP からアクティブなコールをモバイル ネットワークに転送して、設定をテストします。

マルチライン

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ユーザが Cisco Jabber のデイリータスクを実行する複数の電話回線を設定できます。ユーザごとに最大 8 回線までの電話回線を追加できます。Cisco サービスフレームワーク (CSF) デバイスでは、ユーザに複数回線を設定できます。

Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5 SU3 以降のバージョンでは、複数回線がサポートされています。ただし、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5 SU3 および Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0 を使用している場合は、すべてのクラスタノードに [Cisco オプションパッケージ \(COP\)](#) ファイルを手動でインストールし、Cisco Unified Communications Manager を再起動して、複数回線を有効にする必要があります。

複数回線のインストールおよび設定の完了後、次のことを行ってください。

- コールを発信する優先回線を選択してください。
- 不在着信とボイスメール (voicemails) を表示します。
- すべての回線で不在転送、転送、会議通話が使用できます。
- 各回線にカスタム着信音を割り当てます。

マルチラインは、すべての回線上で次の機能をサポートしています。

- デスクフォン版 CTI コントロール
- Far End Camera Control (FECC/遠端カメラ制御) 、 Binary Floor Control Protocol (BFCP)
- ハント グループ
- 通話録音とサイレント モニタリング
- 共有回線、ダイヤルルール、ディレクトリルックアップ
- アクセサリマネージャ

マルチラインが有効になっている場合、次の機能はプライマリかいせんラインでのみ使用できます。

- コール ピックアップ
- 拡張機能と接続機能

複数回線の設定

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の作成とユーザの追加



重要 Cisco Jabber Softphone for VDIの場合、通話のマージ機能の使用には次の設定が必要になります:

- 結合とダイレクトトランスファー ポリシー (**Join And Direct Transfer Policy**)を、同じ回線、行をまたいで有効に設定します。
- [共通設定の上書き (**Override Common Settings**)]チェックボックスをオンにします。

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理から、デバイス > 電話機に進み、デバイスを探して選択します。

ステップ 2 各回線で次のように設定します:

1. 新しい DN を追加をクリックして、ディレクトリ番号を入力します。
2. 追加の設定を任意で追加して **保存** をクリックします。

マルチライン MRA アクセスを有効にする

マルチラインは、モバイルおよび Remote Access (MRA) モードでデスクトップ用 Cisco Jabber を使用する場合にサポートされます。この機能は、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS-C) で有効にすることができます。

ステップ 1 VCS-C に移動します。

ステップ 2 VCS-C 設定 > ユニファイド コミュニケーション > 設定 > SIP パスヘッダーを選択して、オンに設定します。

パーソナル ルーム

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

パーソナル ルームはいつでも利用可能な仮想会議室であり、ミーティングに使用できます。Cisco Jabber では、Cisco Webex Meetings のパーソナル会議室機能でクライアントの **いますぐミーティング** オプションを使用すると、すぐに連絡先とミーティングができます。

- ステップ 1** パーソナル会議室は、Cisco Webex Meetings のユーザに対してデフォルトで有効になっています。詳細については、こちらでアクセス可能な Cisco Webex Meetings のマニュアルを参照してください：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meeting-center/products-installation-and-configuration-guides-list.html>
- ステップ 2** Cisco Webex Meetings ですべてのインスタントミーティングにパーソナル会議室を使用 (**Use Personal Room for all my instant meetings**) を選択することで、すべてのインスタントミーティングに対してパーソナル会議室を設定できます。

Cisco Jabber ビデオおよび音声通話のプッシュ通知サービス

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	対応

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

Cisco Jabber のユーザは、Jabber 音声およびビデオ通話プッシュ通知を受信します。この機能は、デバイスがロックされているときに、Jabber がバックグラウンドやフォアグラウンドで動作しているかにかかわらず、また、Jabber IM サービスに接続されているかどうかにかかわらず機能します。

IM のプッシュ通知の詳細については、[IM 用プッシュ通知サービス](#)を参照してください。

Jabber for iPhone/iPad

リリース 12.1 以降では、Apple Push Notification (APN) の実装は、ユーザのプッシュ通知をサポートしています。Jabber がバックグラウンドで実行されている間は、Apn を使用してチャットメッセージとコールを確実に受信します。



- (注) iOS 上の Jabber MAM のクライアントは、IM ではなくボイス コールのプッシュ通知のみをサポートします。

Jabber for Android

リリース 12.9.1 以降では、Firebase Cloud Messaging (FCM) の実装は、ユーザのプッシュ通知をサポートしています。Jabber がバックグラウンドで実行されている間は、FCM を使用してチャットメッセージとコールを確実に受信します。

前提条件

- iPhone および iPad 版 Jabber
 - Cisco Unified Communications Manager バージョン 11.5.1 SU3 以降
ただし、2021 年 4 月以前のバージョン 11.5.1 SU8 またはバージョン 12.5.1 SU3 にアップグレードする必要があります。
 - Cisco Expressway X8.10
ただし、2021 年 4 月以前のバージョン X12.6 にアップグレードする必要があります。
- Android 版 Jabber
 - Cisco Unified Communications Manager 12.5.1 SU3 バージョン以降
 - CISCO IM and Presence 12.5.1.1 SU3 (Jabber のみ)
 - Cisco Expressway X12.6

プッシュ通知の Jabber への送信方法

サインインプロセス中に、Jabber は APN サービスに登録されます。ユーザは、Jabber にログインしてプッシュ通知サービスを受信する必要があります。

Unified CM サーバが通知を Cisco Cloud サーバにプッシュし、Cisco Cloud server がこの通知を APN サービスにプッシュします。その後、APN サービスは、iPhone や iPad などの Cisco Jabber デバイスの Jabber にこの通知を送信します。これらのデバイスは Jabber を再起動して Unified CM サーバからのコールを取得します。これにより、着信コールをいつでも受信できるようになります。



- (注) プッシュ通知サービスが有効になっているユーザが Jabber を手動で終了した場合、**ForceLogoutTimerMobile** パラメータは機能しません。Cisco では、**Forcelogouttimermobile** パラメータを使用する場合は、プッシュ通知サービスを無効にすることをお勧めしています。

サポートされるサービス

- 電話機のみおよび完全な UC モード
- 共有回線 (1 つのデバイスからコールを受け、保留と再開機能を使用して Jabber に転送することができます)
- CallKit (Jabber のコール、Jabber からネイティブコール、およびネイティブから Jabber へのネイティブコールへの切り替えが可能)

制約事項

- Jabber が Unified CM サーバのコールを取得する前に着信コールが切断された場合、不在着信または通話履歴は録音されません。
- Cisco Jabber と Cisco Webex Teams の両方がインストールされている場合、最初に着信コールを受信するアプリケーションには、callkit が表示されます。
- リリース 12.9 の時は、ピアツーピアコール (locus コール) はサポートされていません。
- Jabber を強制終了またはサスペンドし、着信に応答すると、Jabber は Unified CM との接続を開始します。この場合、「通話接続」フェーズが表示される場合があります。
- Jabber クライアントは、次のようにプッシュ通知を無効にします。
 - デバイスに Google サービスが存在しない場合 (Huawei Mate 30 以降など)、クライアントはサーバ上で有効にした場合でも、プッシュ通知を無効にします。
 - デバイスに Google サービスが存在し、その地域が「中国本土」の場合、クライアントはサーバ上でプッシュ通知を有効にした場合でも、プッシュ通知を無効にします。
 - 中国の他のデバイスの場合、クライアントはプッシュ通知にサーバ設定を使用しません。

Cisco Unified Communications Manager のプッシュ通知サービスを有効にする

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 > 詳細機能 > Cisco Cloud オンボーディングを選択します。

ステップ 2 通知の設定で、[Push notification を有効にする (Push notification)] をオンにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(オプション) シングルナンバー リーチでのプッシュ通知の使用

プッシュ通知の処理時間が、シングルナンバー リング (SNR) に干渉する場合があります。SNR でプッシュ通知を使用する場合は、リング前の待機時間を 13 秒以上に延長することを推奨します。この時間によって、通話に応答する時間を与えます。

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 関連付けられているモビリティ ID を選択し、**タイマー情報**を検索します。
- ステップ 3** [ビジネス回線にダイヤルされたときに、* X 秒経過してからこの電話を呼び出す (Wait * X seconds before ringing this phone when my business line is dialed)] を 13 以上に設定します。

(オプション) ボイスメールでのプッシュ通知の使用

ボイスメールにコールを送信する場合の [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] のデフォルト設定は 12 秒です。プッシュ通知処理は、ほとんどの時間を使用できます。ボイスメールでプッシュ通知を使用する場合は、時間を 25 秒以上に延長することを推奨します。この時間によって、通話に応答する時間を与えます。

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
- ステップ 2** ディレクトリ番号を選択して、[通話転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] を検索します。
- ステップ 3** [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] を 25 以上に設定します。

単一番号リーチ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

シングルナンバーリーチ (SNR) を使用すると、次の場合に、ユーザは仕事用番号から携帯電話に通話を自動的に転送できます:

- Cisco Jabber は利用できません。
Jabber が再び使用可能になり、企業ネットワークに接続した後、Unified CM は SNR を使用せずに Jabber クライアントに通話を発信します。
- Jabber モバイルユーザは、**モバイルボイスネットワーク**を選択するか、または**自動選択**し、かつ、Wi-Fi ネットワーク外で存在します。

ユーザは、Cisco Jabber から SNR の宛先番号を選択またはクリアできます。

単一番号リーチを有効にする

次の手順でユーザに対して単一番号リーチを有効にします。

始める前に

すでにデバイスが割り当てられていることを確認してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次のように単一番号リーチを使用するようにエンドユーザを設定します。

- a) **ユーザ管理 > エンドユーザ**に移動して、ユーザを検索し、ユーザ名をクリックします。
- b) **モビリティ情報**セクションで、**モビリティの有効化** チェックボックスをオンにします。
- c) Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以前の場合は、[プライマリユーザデバイス]を指定します。
- d) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 リモート接続先プロファイルを作成します。

- a) **デバイス > デバイス設定 > リモート接続先プロファイル > 新規追加**に進みます。
 - b) 必要に応じて値を入力し、**保存**をクリックします。
 - c) **新しいディレクトリ番号を追加**をクリックし、リモート通知先プロファイルに関連付けるデスクフォンのディレクトリ番号を入力します。
 - d) [保存] をクリックします。
 - e) **リモート通知先を追加**をクリックしてリモート通知先の番号を**宛先番号**に入力し、**ユーザ ID**を選択します。
 - f) **ユニファイドモビリティ機能の有効化**をクリックして、次のオプションをクリックします。
 - **単一番号リーチを有効にする**
 - [携帯電話への移動を有効にする (Enable Move to Mobile)]
 - g) [保存 (Save)] をクリックします。
-

制約事項

バージョン 8.10.X よりも前の Cisco TelePresence Video Communication Server Control (VCS) では、次のように設定して、モバイルおよび Remote Access で Cisco Jabber を使用するユーザ向けにシングルナンバー リーチを有効にする必要があります。

ステップ 1 Cisco TelePresence Video Communication Server コントロール (VCS) から、**構成 > ユニファイド コミュニケーション > HTTP 許可リスト > 編集可能な受信ルール**を選択

ステップ 2 **新規**をクリックして新しいエントリを作成する

ステップ 3 次の詳細を入力します。

- 説明: 次の説明を入力します。
- UR: URL の詳細を入力します。たとえば、https://[(CUCM domain name)]: ポート番号。
- 許可されているメソッド: デフォルト値をチェックします。たとえば、GET、POST、PUT
- 一致タイプ: ドロップダウンリストから**プレフィックスの照合**を選択します。

ステップ 4 **[保存]** をクリックします。

URI ダイアル

URI ダイアル機能は、オンプレミスの展開に対して使用できます。URI ダイヤリングには、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.1(2) 以降のバージョンが必要です。



重要 Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能が有効な場合、モバイルクライアントはURI ダイアルをサポートしません。

この機能が `EnableSIPURIDialling` パラメータを使用する `jabber-config.xml` ファイルで有効になるようにしてください。

例: `<EnableSIPURIDialling>True</EnableSIPURIDialling>`

パラメータの値の詳細については、「共通のポリシー」の項を参照してください。

URI ダイアルは、ユーザが Uniform Resource Identifier (URI) を使用したコールの発信や連絡先の解決を実行できるようにします。たとえば、アダム・マッケンジー (Adam McKenzie) という名前ユーザが `amckenzi@example.com` という自分のディレクトリ番号と関連付けられた次の SIP URI を持っていたとします。URI ダイアルを使用すると、アダムのディレクトリ番号ではなく、アダムの SIP URI でコールを発信できるようになります。

URI ダイアル要件の詳細および ILS のセットアップを含む詳細設定については、『Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド』の「URI Dialing」の項を参照してください。

URI とディレクトリ番号の関連付け

ユーザが URI コールを発信すると、Cisco Unified Communications Manager はその URI に関連付けられた電話番号に着信コールをルーティングします。このため、URI と電話番号を関連付ける必要があります。URI を使用して電話番号を自動的に入力するか、URI を使用して電話番号を設定します。

URI を使用した電話番号の自動入力

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加するときは、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドに有効な SIP URI を入力します。Cisco Unified Communications Manager はその SIP URI をエンドユーザ設定に保存します。

ユーザのプライマリ内線を指定すると、Cisco Unified Communications Manager はエンドユーザの設定から電話番号の設定にディレクトリ URI を入力します。このため、ユーザの電話番号のディレクトリ URI が自動的に入力されます。Cisco Unified Communications Manager はその URI をデフォルトのパーティションにも配置します。これが **ディレクトリ URI (Directory URI)** です。

次のタスクは、電話番号が URI を継承するように Cisco Unified Communications Manager を設定する手順を大まかに説明しています。

-
- ステップ 1 デバイスを追加します。
 - ステップ 2 デバイスに電話番号を追加します。
 - ステップ 3 デバイスとユーザを関連付けます。
 - ステップ 4 ユーザのプライマリ内線を指定します。
-

次のタスク

ディレクトリ URI が電話番号に関連付けられていることを確認します。

URI を使用した電話番号の設定

ユーザに関連付けられていない電話番号用の URI を指定できます。URI を使用した電話番号は、テストと評価の目的でのみ設定する必要があります。

URI を使用した電話番号を設定するには、以下の手順に従ってください。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 適切な電話番号を検索して選択します。
[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [ディレクトリ URI (Directory URIs)]セクションを探します。

ステップ 5 [URI]列で有効な SIP URI を指定します。

ステップ 6 適切なパーティションを [パーティション (Partition)]列から選択します。

(注) システムの [ディレクトリ URI (Directory URI)]パーティションには、URI を手動で追加できません。URI は電話番号と同じルートパーティションに追加する必要があります。

ステップ 7 ユーザが電話番号にコールを発信できるように適切なコーリング検索スペースにパーティションを追加します。

ステップ 8 保存を選択します。

ディレクトリ URI パーティションの関連付け

Cisco Unified Communications Manager が URI を配置するデフォルトのパーティションを、電話番号を含むパーティションと関連付ける必要があります。



重要 URI ダイアルを有効にするには、デフォルトのディレクトリ URI パーティションを、電話番号を含むパーティションと関連付ける必要があります。

コーリング検索スペース内に電話番号のパーティションがない場合は、パーティションを作成して、適切に設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム]>[エンタープライズパラメータ]を選択します。

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [エンドユーザのパラメータ (End User Parameters)]セクションを探します。

ステップ 4 [ディレクトリ URI エイリアスパーティション (Directory URI Alias Partition)]行で、ドロップダウンリストから適切なパーティションを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)]をクリックします。

デフォルトのディレクトリ URI パーティションは電話番号を含むパーティションと関連付けられています。それにより、Cisco Unified Communications Manager は着信 URI コールを正しい電話番号にルーティングできます。

ユーザが電話番号にコールを発信できるようにパーティションが適切なコーリング検索スペースにあることを確実にする必要があります。

連絡先の解決のための SIP 要求における FQDN の有効化

URI による連絡先の解決を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager が SIP 要求で完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用するように設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 適切な SIP プロファイルを検索して選択します。

メモ デフォルトの SIP プロファイルは編集できません。必要に応じて、デフォルトの SIP プロファイルのコピーを作成して変更します。

ステップ 4 [SIP 要求で完全修飾ドメイン名を使用 (Use Fully Qualified Domain Name in SIP Requests)] を選択し、[保存 (Save)] を選択します。

次のタスク

URI を関連付けるプライマリ内線があるすべてのデバイスと SIP プロファイルを関連付けます。

ボイスメールの無効化

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ボイスメール回避は、コールがモバイル サービス プロバイダーのボイスメールに回答することを防ぐ機能です。この機能は、ユーザがモバイル デバイスで企業からモバイル コネクト コールを受信するときに便利です。また、DvO-R の受信コールがモバイル デバイスに発信される場合にも便利です。

ボイスメールの無効化は、次の 2 つのいずれかの方法で設定できます。

- **タイマー制御**：（デフォルト）この方式では、Cisco Unified Communications Manager にタイマーを設定して、モバイル ユーザまたはモバイル サービス プロバイダーのボイスメールのどちらによってコールに応答するか決定します。
- **ユーザ制御**：この方式では、コールを先に進める前に、デバイスのキーパッドの任意のキーを押すことによる DTMF トーンの生成をユーザに要求するように Cisco Unified Communications Manager を設定します。

DvO-R を導入する場合は、ユーザ制御のボイスメールの無効化も設定することが推奨されます。ユーザ制御のボイスメールの無効化を設定すると、この機能は DvO-R とモバイル コネクト コールの両方に適用されます。

ボイスメールの無効化の詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Confirmed Answer and DvO VM detection」の項を参照してください。

タイマーで制御されたボイスメールの無効化のセットアップ

タイマー制御方式をセットアップするには、モビリティ ID またはリモート接続先のいずれかで [呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)] および [呼び出し終了タイマー (Answer Too Late Timer)] を設定します。詳細については、「モビリティ ID の追加」または「リモート接続先の追加 (オプション)」のトピックを参照してください。

始める前に

タイマー制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降でサポートされています。

ユーザ制御のボイスメールの無効化のセットアップ



重要 ユーザ制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以降で使用できます。

ユーザ制御のボイスメールの無効化を次のようにセットアップします。

1. 「ボイスメールの無効化をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定」のトピックを使用して Cisco Unified Communications Manager をセットアップします。
2. 次のトピックのいずれかを使用してデバイスをセットアップします。
 - 「モビリティ ID のボイスメールの無効化の有効化」
 - 「リモート接続先のボイスメールの無効化の有効化」



重要 Cisco は、エンドユーザがクライアントで設定した代替番号で DvO-R を使用する場合、ユーザ制御のボイスメールの無効化をサポートしていません。代替番号とは、ユーザのモビリティ ID で設定した電話番号と一致しない、ユーザがクライアントの DvO コールバック番号のフィールドに入力した電話番号です。

代替番号を使用してこの機能を設定する場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールバックが誤った番号またはボイスメールシステムに接続しても DvO-R コールを接続します。

ボイスメールの無効化をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定

ユーザ制御のボイスメールの無効化をサポートするように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を使用します。

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。
- ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストで、アクティブな Cisco Unified Communications Manager を選択します。
- ステップ 4 [サービス (Service)]ドロップダウンリストで、[Cisco Call Manager (アクティブ) (Cisco Call Manager (Active))]サービスを選択します。
- ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (システム-モビリティシングルナンバーリーチボイスメール) (Clusterwide Parameters (System - Mobility Single Number Reach Voicemail))]セクションで設定を構成します。
 - (注) ここでの設定は、Cisco Jabber に固有ではありません。これらを設定する方法については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「*Confirmed Answer and DVO VM detection*」の項を参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)]をクリックします。

モビリティ ID のボイスメールの無効化の有効化

エンドユーザのモビリティ ID に対してユーザ制御のボイスメールの無効化を有効にするには、次の手順を使用します。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「*Annunciator setup*」の項を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager にメディアリソースグループを設定する場合は、メディアリソースグループにアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリ

リリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「Media resource group setup」の項を参照してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)] セクションで、モビリティ ID のリンクをクリックします。

(注) ボイスメールの無効化機能が正常に動作するには、エンドユーザが Cisco Jabber クライアントに入力する DvO コールバック番号が [モビリティ ID の設定 (Mobility Identity Configuration)] 画面で入力する [接続先番号 (Destination Number)] と一致する必要があります。

ステップ 4 ポリシーを次のように設定します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 : [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)] を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office なし) : [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)] を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office あり)
 - [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで [タイマー制御 (Timer Control)] を選択します。
 - [Dial-via-Office リバース ボイスメール ポリシー (Dial-via-Office Reverse Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで [ユーザ制御 (User Control)] を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

「リモート接続先のボイスメールの無効化の有効化」

エンドユーザのリモート接続先に対してユーザ制御のボイスメールの無効化を有効にするには、次の手順を使用します。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Annunciator setup」の項を参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager にメディア リソース グループを設定する場合は、メディア リソース グループにアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「*Media resource group setup*」の項を参照してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)]セクションで、関連付けられたリモート接続先のリンクをクリックします。

ステップ 4 ポリシーを次のように設定します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 : [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)]を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office なし) : [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)]を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office あり)
 - [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで [タイマー制御 (Timer Control)]を選択します。
 - [Dial-via-Office リバース ボイスメール ポリシー (Dial-via-Office Reverse Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで [ユーザ制御 (User Control)]を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)]をクリックします。

ボイスメッセージ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

ボイスメール画面には、次の追加オプションが含まれています:

- ユーザは、発信せずにボイスメッセージを録音して、メッセージを送信することができます。ユーザは、ボイスメール サーバのカタログから受信者を選択できます。
- ユーザは、ボイスメールの送信者またはそのメッセージのすべての受信者に直接返信できます。
- ユーザは、ボイスメールを新しい受信者に転送することもできます。

ボイスメール サーバの管理者は、ユーザがメッセージを送信できるようにディストリビューションリストを作成することもできます。

送信されたボイスメッセージの表示

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—

Cisco Unity Connection で送信メッセージの保有期間を設定すると、ユーザは Jabber で送信されたボイスメッセージにアクセスできるようになります。

ステップ 1 Unity 接続管理で、メッセージの設定に移動します。

ステップ 2 この機能を有効にするには、送信済みメッセージ: 保持期間 (日) を正の数に設定します。

自動応答コール

着信 Jabber コールに自動応答するように CSF デバイスを設定できます。Unified CM では、ヘッドセットまたはスピーカーフォンで自動応答するようにデバイスを設定できます。

すべての接続されているデバイスが自動応答をサポートしていない場合は、共有回線上で自動応答を設定しないでください。



- (注) Zip トーンも有効にした場合、zip トーンは、CSF デバイスがヘッドセットを使用して自動応答したときに Jabber でのみ再生されます。Zip トーンは、スピーカーフォンが通話に自動応答しているときには再生されません。

シスコユニファイドコンタクトセンターを備えた Jabber

Cisco Jabber は、コンタクトセンター環境のエージェント電話として使用できます。Jabber では、次のシスコユニファイドコンタクトセンターの機能がサポートされています。

- **CTI Servitude** : ユニファイドコンタクトセンターの導入は、Jabber によるソフトフォンを、cti を介して制御できます。
- **自動応答** : Unified CM で Jabber CSF デバイスの自動応答を設定できます。ただし、共有回線上のすべてのデバイスは自動応答をサポートしている必要があります。
- **Zip トーン** : ヘッドセットで自動応答させることができる zip トーンを使用できます。スピーカーフォンを使用した自動応答は、zip トーンをサポートしていません。
- **ウィスパアナウンスメント**: ウィスパアナウンスメントを使用して、応答メッセージをエージェントに再生できます。
- **エージェントグリーティング** : エージェントグリーティングを使用して、録音済みのメッセージを顧客に再生できます。
- **サイレントモニタリング** : スーパーバイザーが着信コールを監視できます。
- **スーパーバイザーの入力** : cBarge を使用して、スーパーバイザーはアクティブコールに自らを入れることができます。ネットワークベースのメディアリソースを設定し、Jabber でこの機能をサポートできるようにする必要があります。この機能は、ユーザが Jabber の組み込み型のブリッジ (BiB) を有効にしても、cBarge モードで起動します。
- **通話のレコーディング**: Cisco Unified Contact Center がサポートしているレコーディングサーバにレコーディングストリームを送信できます。



(注) Jabber は、連絡先センターの展開におけるエクステンションモビリティをサポートしていません。

電話番号解決リクエストのサーバ負荷の軽減

Jabber を起動すると、Jabber は、連絡先ソースからの通話履歴にある各発信者を検索しようとします。外部電話番号からのコールのほとんどが連絡先センターにあるような展開では、これらの要求は外部の電話番号の不要なオーバーヘッドになります。大量の外部コールがある場合、これらの要求は LDAP または UDS サーバに大きな負荷をかける可能性があります。

この負荷を軽減する必要がある場合は、`DisableCallHistoryResolution` パラメータを使用できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。